

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	GH千本松(福寿苑) なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2192200026-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが利用者様とのコミュニケーションにより その方に合ったケアに気付き 日々の生活に 反映できるよう心掛けています。利用者様が 不安のない毎日を過ごして頂くとともに ご家族に安心していただけるような施設作りを目標に 職員一同頑張っております。

住民が多く集まる場所のスーパーや温泉施設に職員が出向き、「介護何でも相談所」を開設し、地域の人の相談相手になり、地域福祉の向上に努めている。系列の事業所が3ヶ所道路を隔てて隣接しており、行事や散歩時に行き来し、相互に協力し合う補完体制や援助関係ができています。口ずさみやすい法人の歌を作り、利用者と一緒に歌い体操をして、楽しみながらリハビリの一環としても活用している。家族が寄り添って看取りができるよう、食事や布団の提供もし、看護師や職員が協力しながら最後まで支援している。排泄記録は、職員間で一目でわかるように工夫し、自立に向けた支援をしている。職員は自己評価表にて、日々の介護における姿勢や達成目標を振り返り、次期目標を設定し、自己啓発への努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に1度の職員会議では理念、心得の唱和するとともに勉強会を開き 理念の共有、及び介護に対する意識向上に努めている。	理念を玄関や事務室に掲示し、理念を具体化する心得を作り、毎日の介護で意識付けて実践している。理念を実践しているかを、職員は自己評価し振り返りながら確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや利用者の馴染みの場所に出かけ 昔からの顔見知りの方々との交流を持っている。又散歩の途中で喫茶店に寄ったり 美容院の方は 気分転換にお迎えにきてくださる。	スーパーや温泉施設に職員が出向き、「介護何でも相談所」を開設し、地域の人と関わっている。利用者が保育園の運動会に参加したり、散歩時に挨拶をし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとに 大型商業施設など地域の方の交流の場に出向き 介護相談等を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政を始め 警察・消防・民生委員・老人会・ご家族の参加により 事故報告や活動報告をさせて頂く また ご意見やご指導を頂きサービス向上に生かすとともに 会議録をご家族に発送している。	専門分野の参加者から職員が気づかない視点で意見や助言をもらい、職員とも話し合いホームの運営に活かしている。外部評価の報告も行い、今後の方向性や改善について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き 事業所の状況報告や 助言を頂く事が出来るよう 1ヶ月に1回程度 事業所より訪問している。	隣接する建物に包括支援センターがあり、折に触れて相談したり、助言を受けたりしている。市の社会福祉協議会との連絡会議や専門職会議にて、相互に情報を伝達し合い、相談ができる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは 全体会議の勉強会で職員は理解している。又 利用者様の安全を見守りながら 行動範囲を確認 職員間で事故の最小限にする配慮をしている。	利用者が自由にユニット間の行き来や屋外への出入りができるように施錠はしていない。転倒の危険がある利用者の行動を把握して、床に布団を敷き転落の防止をするなど、自由な過ごし方ができる介護をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は全体会議の勉強会で必ず行い職員は全員理解している。又 職員全体で虐待を見過ごす事の無いよう対応している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の仕組みなど全体会議の勉強会で実施している。事業所に入所の利用者様が自立支援事業のサービスを利用されている為 大いに勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は ご家族に充分時間を用意して頂き 説明している 疑問点などの確認もしている。又 他のご家族にもご理解いただけるよう 説明や声掛けをして下さるように 御願している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見を頂いたり利用者家族アンケートの実施。面会時には 積極的に 声掛けすると共に 契約時に苦情相談機関の説明もしている。	面会時に職員から気軽に声かけし、座ってゆっくりと話を聞いている。電話や手紙送付時に意見を聞き、職員で話し合い、返答と共に取り入れている。家族アンケートをとり、出た意見から外出機会を多くとるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聞く時間を設けている。また 一人ひとりと会話できるよう個人面談を実施している。	職員がユニットリーダーや管理者に意見を自由に言える雰囲気をつくっている。出た意見は申し送り時や月1回の全体会議で話し合っている。個人面談や自己評価表にて意見を述べ、管理者と一緒に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、一人ひとりの生活環境を理解した上で勤務体制を整え 介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて 研修を受けられるようにしている。受講した際は 復命書を提出して伝達講習を行っている。また 新人教育についてもプリセプターを付け期間ごとに評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり 外部からの講師による研修や 介護支援専門員は2ヶ月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し 利用者様の今までの生活を理解した上で 安心して入所していただけるよう 信頼関係の構築から始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに 入所にあたり 本人様とご家族様が円滑な関わりが出来るよう援助している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が 入所にあたり 不安や希望を訴えることの出来る環境を整え 本人様やご家族が納得されるようプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで その時々々の知恵を頂き御互いに支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族を感謝して頂くような声掛けをすると共に ご家族には利用者様の大切さを声掛けをする事で本人様をより良い環境で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時には おちよぼ稲荷を始め 馴染みの喫茶店などに出向いて 知り合いの方と会話をしたり 楽しい時間を過ごしている	入居前から関わりが多かった病院や施設にいる馴染みの人に面会に行っている。以前の仕事仲間が来訪時は、再度の訪問を呼び掛けている。家族に電話する支援や手紙の宛名書きの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共通の会話で話が弾む事が出来るように 職員は状況により 情報提供できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には御手紙を出したり又 医療機関に入院された利用者様には 病院に伺い 様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより 利用者様の性格及び生活を知り又 入所されてからの観察により 出来る限り 今までと変わりなく生活できるように 支援している。	生活歴を把握し、コミュニケーションを大切にして、その人に合った声かけをしている。様々な生活場面で現す表情や仕草を見逃さず、思いを把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を得ることで把握又施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながら その方らしい生活が出来るよう 支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活・他者との関わりの中なかで状況把握に努め その方の思いを職員全体で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様にとってより良い施設生活になるように本人様を始め・ご家族・医療・職員で今の現状を常に共有できるようにして 介護計画に反映している。	家族や利用者の要望を聞き、担当者会議で医療職の意見を取り入れ計画を作っている。月1回の評価は担当者と共に行き、3ヶ月に1回は見直している。センター方式や独自のADL評価表を作り工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	高齢で認知症のため自分の思いを伝える事が難しい利用者に代わり 日常生活の変化を気づき記録残す事で職員間で共有 見直しながら その方にとってより良いケアになるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最近独居の方の入所が多い為 今までの対応では難しくなっている為 状況に応じて又ニーズに合った対応に配慮している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を始めご家族 近隣 職員又 運営推進会議では行政による地域資源の活用などの助言を頂き利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢である利用者様の安全を守る為にはかかりつけ医との連携を密にして 医師の指示の下対応するとともにご家族の意見を尊重 他の医療機関へも受診している。	以前からのかかりつけ医を家族同行で受診している。緊急時や希望があるときは看護師が同行し、受診前後を家族に報告している。看護師は協力医やかかりつけ医と関係を密にし、いつでも連携できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の状況把握が出来るよう 職員は見守り 変化の状況を看護師に伝える事が出来るよう 環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際は ほぼ毎日看護師により医療機関に出向き 状況の把握に努め病院関係者との情報を密に取り又ご家族からの相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期のあり方を 本人様及びご家族にはお元気なうちからお話をして 意向を伺うようにしている。また 医療機関及び他施設との協力体制を整えている。	入居時に事業所の方針を説明し、早い段階からその都度家族と話し合っている。医師と相談し、看護師や職員が協力しながら看取りまで支援している。家族が寄り添って看取りができるよう、食事や布団の提供もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が来るまでに準備することなどについての勉強会を実施し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画のもと 一年に二回、昼間と夜間を想定した火難訓練、消火訓練、非常召集訓練等で、ご家族や自治会にいざとなった時に駆けつけていただくような協力体制の話し合いをしている。	系列事業所と合同訓練のほか、単独でも利用者と一緒に訓練している。避難場所として、近くの介護施設と協定を結んでいる。自治会・老人会・婦人会に声掛けをしているが、訓練時の協力までできていない。	系列の事業所間で協力し合う体制はあるが、地域住民の協力が得られるように、さらなる働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな状況の際も利用者様の思いを理解することにより 人格の尊重・プライバシーの保護を優先するように 職員には指導している。	職員は一人ひとりの個性を知り、その人に合わせ誇りやプライバシーを損ねない声掛けをしている。トイレは布カーテンとアコーディオンカーテンを二重にし、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の表情や態度で変化に気づくように努め 思いや希望を言葉に出していただくようにコミュニケーションを摂る様に職員は心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの時間は決まってはいるが その日の御天気や状況に応じて 利用者様の希望に添うようにしている 入浴拒否などあった場合 一応状況を御話して 理解して頂くように している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の要望により 美容院を予約 近隣にある為 ご自分で出かけられる。また衣類は自分で選び 出来る限り 自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が 楽しみになるよう 職員も一緒に昼食を摂り 何気ない会話の中で 思いをお聞きする事ができる。また ご家族からの頂き物など皆さんに伝えるようにしている。	胃ろうの人も状態を見て、職員が介助し皆と一緒に食べられる楽しみを支援している。職員が利用者の好みを聞き、季節の食材や希望の献立で調理しているが、利用者が主体となつた食事作りができていない。	食事に関わる様々な場面で、職員と一緒に協力し合い、一人ひとりの力を活かす工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の疾病や体調により異なる部分はあるが食事及び水分の摂取の確認するとともに 足りないような時には 栄養補助食品やスポーツドリンクなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中のケアは その方に合った 歯ブラシ ハミングットやガーゼを使用している。口の中のトラブルの際は かかりつけ医や医療機関に受診するようにしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や利用者様一人ひとりの行動により声掛けをしたりしてトイレへ促すよう心掛けている。	排泄パターンを把握し、夜間もできる限りトイレ誘導して、オムツから布パンツになった利用者もいる。排泄記録は色分けや符号化して、職員間で一目でわかるように工夫し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察及び確認により把握利用者様一人ひとりに対応を変えている。又食事の献立にも考慮しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の状況にもよるが出来る限り希望に沿うようにしている 拒否があってもお話しして 理解して頂くようにしている。	利用者の希望で毎日入浴や足湯も行っている。入浴嫌いな人には、時間変更したり、声のかけ方や職員を交代したりして工夫している。ゆず湯やしょうぶ湯など季節に合わせた入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限りリビングで過ごして頂いているが状況に合わせ 横になっていただいたり 眠りが深いときなどは様子を見ながら 対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服薬されている薬を理解するよう 看護師より指導されている薬が変わった時には必ず看護師が報告連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴などに合った家事を手伝っていただいたり 得意な事などは率先してやっていただくよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活では 散歩や施設周りの草むしりなどで戸外に出ているが外出の場合はご家族や ボランティアをつのり 外出している。	天気の良い日は散歩や近くの介護施設に出かけている。弁当を作って庭で食事をするなど戸外に出る機会を多く作っている。利用者の希望をつのり、観光地の神社や公園に車イスの人も一緒に出かけている。家族の協力を得て自宅や実家に行く人もいる。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については 混乱を招く事の無いよう事務所で預かり 欲しい物がある時には 職員と共に 買い物に出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が ご家族に連絡したい時など 自ら 事務所にこられるようオープンにしてある。手紙など出す事が出来るように 住所などの字を書く練習もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の消臭はご近所よりいただいた炭をおいている。又 各居室は利用者様やご家族の意見により消臭剤を使用したりしている部屋もある。リビング内は 窓を開けかぜをいれたり 日差しを遮るための ブラインドの設置などしている。	玄関や居間にはクリスマス飾りがあり、中庭には利用者で作った干し柿や洗濯物が干してあり、季節や生活を感じられるようにしている。中庭や色々なところにイスを置き、掘りごたつのある部屋では、昼寝をしたり気ままに過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには ソファを設置 中庭には縁台 エントランスにはマッサージチェアや椅子等あちらこちらに 腰を下ろすことの出きる様設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりに合わせている 本人様やご家族の思い思いの品物を置かれている。又 車椅子など使用されている方の御部屋は 自由に動く事が出来るようにしている。	箆笥やテレビなどを利用者や家族と相談しながら配置している。壁には利用者が作成した絵や習字・家族の写真などを飾っている。すべて風呂敷に包んで整理する利用者もいるなど個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は 自由に行動できるように障害物を除き 隣のユニットにも自由に行き来できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	GH千本松(福寿苑) やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成25年10月30	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200026-00&Pr ef Cd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの個性を 尊重するように声掛けには配慮するとともに 利用者様や職員が家族のような 関係で お互いを 気に掛け合える施設を目指し 個性のぶつかりなどがあつた時には 御互いの状況を理解していただくように 個別のコミュニケーションを図り 笑い声がいつも聞こえるユニットをめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に1度の職員会議では理念、心得の唱和するとともに勉強会を開き 理念の共有、及び介護に対する意識向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや利用者の馴染みの場所に出かけ 昔からの顔見知りの方々との交流を持っている。又散歩の途中で喫茶店に寄ったり 美容院の方は 気分転換にとお迎えにきてくださる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月ごとに 大型商業施設など地域の方の交流の場に出向き 介護相談等を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政を始め 警察・消防・民生委員・老人会・ご家族の参加により 事故報告や活動報告をさせて頂く また ご意見やご指導を頂きサービス向上に生かすとともに 会議録をご家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き 事業所の状況報告や 助言を頂く事が出来るよう 1ヶ月に1回程度 事業所より訪問している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは 全体会議の勉強会で職員は理解している。又 利用者様の安全を見守りながら 行動範囲を確認 職員間で事故の最小限にする配慮をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は全体会議の勉強会で必ず行い職員は全員理解している。又 職員全体で虐待を見過ごす事の無いよう対応している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の仕組みなど全体会議の勉強会で実施している。事業所に入所の利用者様が自立支援事業のサービスを利用されている為 大いに勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は ご家族に充分時間を用意して頂き 説明している 疑問点などの確認もしている。又 他のご家族にもご理解いただけるよう 説明や声掛けをして下さるように 御願している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見を頂いたり利用者家族アンケートの実施。面会時には 積極的に 声掛けすると共に 契約時に苦情相談機関の説明もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聞く時間を設けている。また 一人ひとりと会話できるよう個人面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、一人ひとりの生活環境を理解した上で勤務体制を整え 介護職としてのキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて 研修を受けられるようにしている。受講した際は 復命書を提出して伝達講習を行っている。また 新人教育についてもプリセプターを付け期間ごとに評価をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり 外部からの講師による研修や 介護支援専門員は2ヶ月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し 利用者様の今までの生活を理解した上で 安心して入所していただけるよう 信頼関係の構築から始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに 入所にあたり 本人様とご家族様が円滑な関わりが出来るよう援助している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が 入所にあたり 不安や希望を訴えることの出来る環境を整え 本人様やご家族が納得されるようプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの今までの生活や経験を知ることで その時々々の知恵を頂き御互いに支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族を感謝して頂くような声掛けをすると共に ご家族には利用者様の大切さを声掛けをする事で本人様をより良い環境で支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が ご家族に連絡したい時など 自ら 事務所にこられるようオープンにしてある。手紙など出す事が出来るように 住所などの字を書く練習もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共通の会話で話が弾む事が出来るように 職員は状況により 情報提供できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には御手紙を出したり又 医療機関に入院された利用者様には 病院に伺い 様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより 利用者様の性格及び生活を知り又 入所されてからの観察により 出来る限り 今までと変わりなく生活できるように 支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を得ることで把握又施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながら その方らしい生活が出来るよう 支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活との関わりの中で状況把握に努め その方の出来ることを発見するように コミュニケーションを摂るよう 職員は心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様にとってより良い施設生活になるように本人様を始め・ご家族・医療・職員で今の現状を常に共有できるようにして 介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を怠る事のないように職員間で共有しながら 全体会議で対応を協議し ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所のほとんどの方が 独居からの施設生活の為 一人ひとりの状況が違うことを職員が理解して対応にあたっている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者を始めご家族 近隣 職員又 運営推進会議では行政による地域資源の活用などの助言を頂き利用者様の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のほとんどが 顔見知りのかかりつけ医のため 利用者様の信頼が厚く 些細な事でも看護師は 医師に相談している。また 緊急時は他の医療機関にも 連絡して対応して下さる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の状況把握が出来るよう 職員は見守り 変化の状況を看護師に伝える事が出来るよう 環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際は ほぼ毎日看護師により医療機関に出向き 状況の把握に努め病院関係者との情報を密に取り又ご家族からの相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期のあり方を 本人様及びご家族にはお元気うちからお話をして 意向を伺うようにしている。また 医療機関及び他施設との協力体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が来るまでに準備することなどについての勉強会を実施し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画のもと 一年に二回、昼間と夜間を想定した火難訓練、消火訓練、非常召集訓練等で、ご家族や自治会にいざとなった時に駆けつけていただくような協力体制の話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな状況の際も利用者様の思いを理解することにより 人格の尊重・プライバシーの保護を優先するように 職員は理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の表情や態度で変化に気づくように努め 思いや希望を言葉に出していただけるようコミュニケーションを摂る様、職員は心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの時間は決まってはいるが その日の御天気や状況に応じて 利用者様の希望に添うようにしている 入浴拒否などあった場合 一応状況を御話して 理解して頂くように している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の要望により 美容院を予約 近隣にある為 ご自分で出かけられる。また衣類は自分で選び 出来る限り 自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が 楽しみになるよう 職員も一緒に 昼食を摂り 何気ない会話の中で 思いをお聞きする事ができる。また ご家族からの頂き物など皆さんに伝えるようにしている。胃ろうの方も経口摂取に挑戦し、一緒に時間を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の疾病や体調により異なる部分はあるが食事及び水分の摂取の確認するとともに 足りないような時には 栄養補助食品やスポーツドリンクなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの方が口腔ケアは自立であるが職員により 必ず声掛け様子見守りしている。義歯の洗浄は 職員が確認している 胃ろうの方の口腔ケアは 看護師が指導している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレへの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や 利用者様一人ひとりの行動により声掛けをしたりして トイレへ促すよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察及び確認により把握 利用者様一人ひとりに対応を変えている。又 食事の献立にも考慮しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状況にもよるが 出来る限り希望に沿うようにしている 拒否があっても お話して 理解して頂くようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などの時間は無いが それぞれの利用者さまの 状況で自由に 居室で休まれたりリビングで 過ごされたりと 就寝時間も決まってははいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は 利用者様の服薬されている 薬を理解するよう 看護師より指導されている 薬が変わった時には 必ず看護師が報告連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴などに合った家事を手伝っていただいたり 得意な事などは率先してやっていただくよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活では 希望されたら みなさん一緒に散歩に出かけたり 施設内の草が生えていたりすると 利用者様が率先して草むしりをやってくださる。車などで出かける際は 予定を作り 協力者をつのっている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については 混乱を招く事の無いよう事務所で預かっている方もあるが利用者の中には 職員に買い物を頼まれお金を渡される方もあり その方の 能力に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が ご家族に連絡したい時など自ら 事務所にこられるようオープンにしてある。手紙など出す事が出来るように 住所などの字を書く練習もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の消臭は地域の方よりいただく炭を使用している。又 各居室は利用者様やご家族の意見により消臭剤を使用したりしている部屋もある。リビング内は 窓を開けかぜをいれたり 日差しを遮るための ブラインドやすだれを設置などしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには ソファーを設置 中庭には縁台 エントランスにはマッサージチェアや椅子等あちらこちらに 腰を下ろすことの出きる様設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりに合わせている 本人様やご家族の思いの品物を置かれたり、施設内で行った習字や壁掛けなどの作品を思い思いに飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は 自由に行動できるように障害物を除き 隣のユニットにも車椅子で自由に行き来できるようにしている。		